



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2020年
5月4日
発行

第31回 「株式市場見通し」

～ 当面はボックス圏、リスクは下振れ ～

初めに

先日、日経平均株価は2万円を回復しました。2万円は3月9日以来の約8週間ぶりのことです。今回は、日経平均株価が2万円を回復した後の株式市場の見通しについて検討します。

新型コロナの影響は低下

新型コロナ感染症（以下、新型コロナ）の相場は、誰も経験したことがないものです。その為、市場参加者は状況を把握できず新型コロナに振り回されることになりました。日経平均が1万6千円台まで下落した時は、かなり悪いシナリオを織り込んだものと思われる。しかしその後は、新型コロナについていろいろなことが分かってきました。中でもポイントになったのは外出規制です。新型コロナ対策としての有効性が認識され、多くの国が採用し、新型コロナの感染拡大に歯止めがかかりました。これがきっかけになり、株式市場も上昇に転じました。また、治療薬の開発が進んでいることもあり、今後については、新型コロナそのものが株式市場の悪材料となる可能性は低下したと見ています。

ボックス圏での推移を見込む

ここからは、今後の見通しについて考えてみます。当面は、好材料、悪材料ともに株価に織り込み済みの相場となっている為、ボックス圏での推移となると考えております。

次の上昇の条件は景気、企業業績の改善

景気が大きく悪化する中、世界中で大規模な経済対策や金融緩和などが実施されました。これがここまで株価が上昇した理由の一つですが、現時点では既に株価に織り込み済みであり、今後の更なる株価上昇の為には、例えば、実際に景気や業績に改善の兆しが出てくる等、新たな好材料が必要です。一方、下落要因については、既に景気や業績が大幅に悪化していることは、経済指標や決算発表により明らかなものとなっています。こちらも株価には織り込み済みであり、景気や企業業績を理由に改めて株価が大きく下落することはないとみています。ただし、現時点においては、上振れリスクよりも下振れリスクの方が高いと考えています。

下振れリスクに注意

そのように考える理由は、市場がまだ織り込んでいないと思われるリスク要因が散見されることです。例えばリートです。景気悪化により不動産の価格や賃料が下落し、リートが厳しい状況に置かれる可能性はあると思います。既に問題となっていますが、原油もそうです。産油関連企業の破綻や、産油国の財政悪化などを通じて株式市場に悪影響を及ぼすことは考えられます。もう一つ懸念されるのは、ユニコーン、スタートアップなどと呼ばれる急成長した未上場企業です。これらの企業の中は、成長性が高い反面、財務基盤が弱い企業もある為、景気悪化によって苦境に追い込まれる恐れがあります。こうした点を踏まえて、上振れよりも下振れリスクの方が可能性があるかと判断しています。以上のように分析してきましたが、結論としては、当面株式市場はボックス圏で推移、リスクは上振れよりも下振れの方があると判断しています。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES CO., LTD.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あつせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等のご遠慮ください。